

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 尾倉 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

尾倉 中学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B、理科)結果

		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
平成 2 5 年度	本市	74.7	65.0	60.3	38.2	
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	77.2	47.6	62.4	54.4	48.6
	全国	79.4	47.6	67.4	59.8	51.0
平成 2 7 年度	本市	73.9	63.1	61.6	37.7	50.0
	全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率を上回っていた。 無回答率が昨年度と比べ上昇した。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	適切な語句を選択する問題については、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	漢字を書く問題については、無回答率が高かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率とほぼ同じであったが、昨年度より平均正答率が上昇した。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	効果的な資料を作成し、活用しながら話す内容を選択する問題については、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	根拠を明確にして自分の考えを答える問題については、無回答率が高かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回っている。 方程式を解く問題については、平均正答率が高かった。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	方程式や関数などの問題について、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	平行移動した図形をかく問題について、正答率が低かった。	

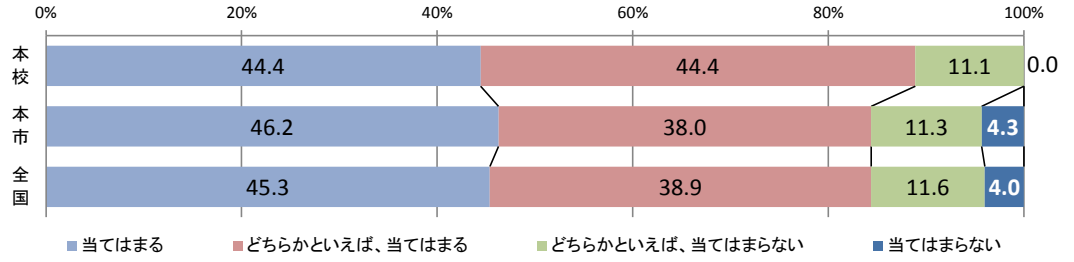
数学B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回っている。 昨年度と比べ、無回答率が上昇した。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	事象を発展的に考え、予想した事柄を説明する問題について、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	資料の傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題について、正答率が低かった。	

理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率を下回っている。 記述式の問題について無回答が全国平均を上回っている。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	選択式の問題については、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	他者の考察を検討して改善し、説明する問題について、正答率が低かった。	

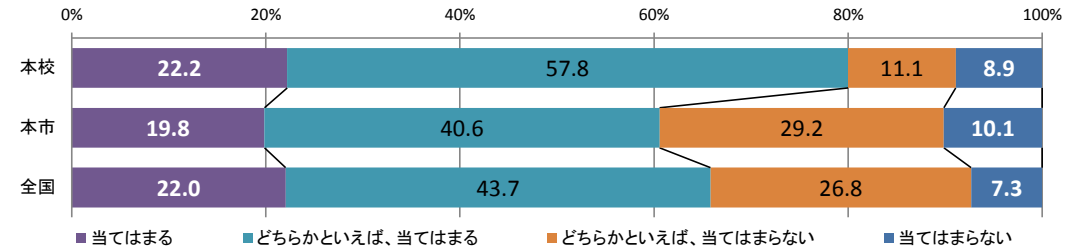
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

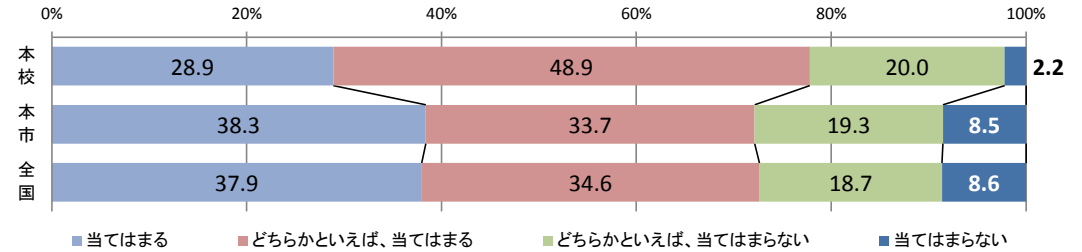
52
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



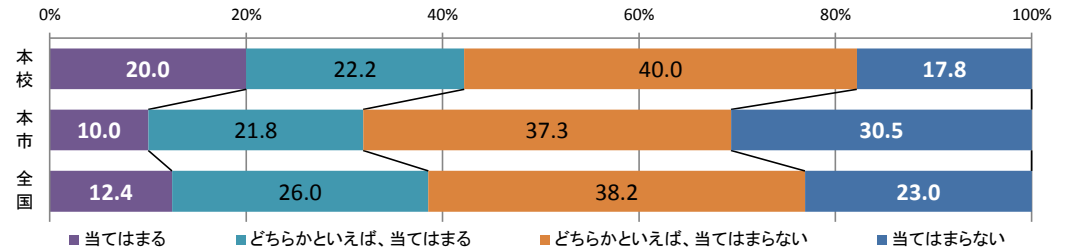
55
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。



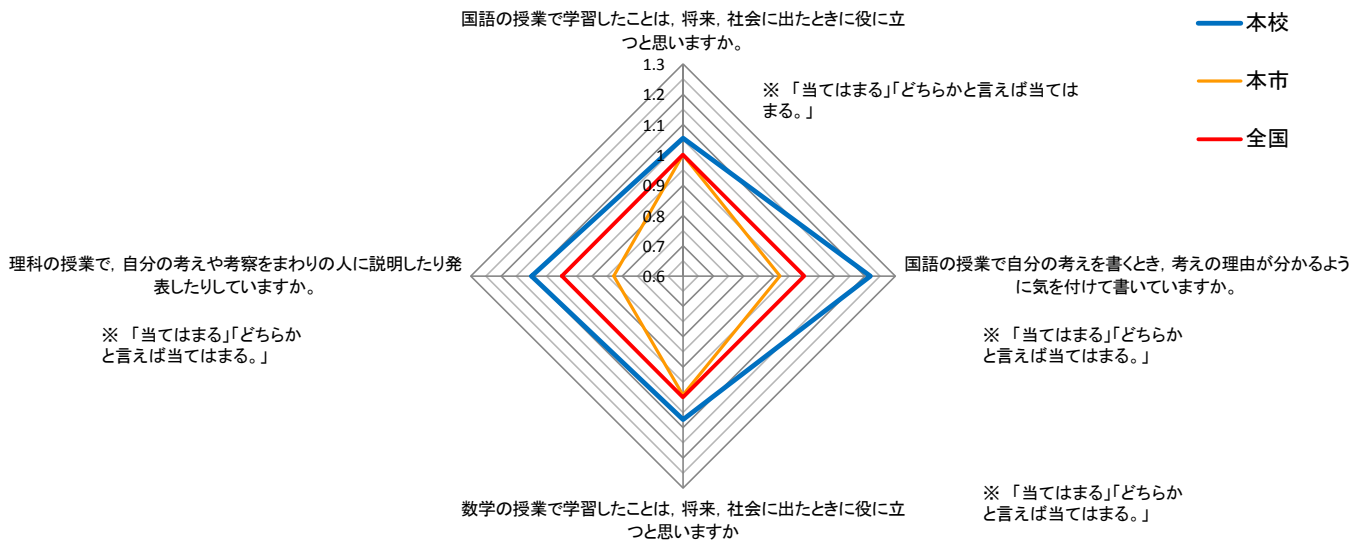
64
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



76
理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



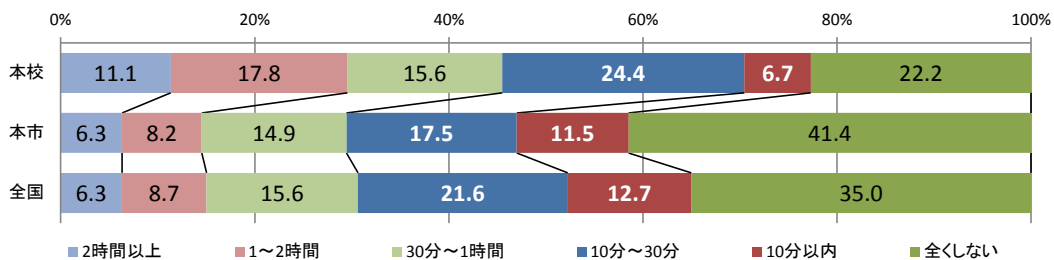
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・国語では、書く活動を多く取り入れた授業を行っており、書くことについての抵抗は比較的少ない。
- ・数学や理科では、選択問題と比べ、記述式問題では無回答率が高くなる傾向があった。自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置付けたりして、言語活動を授業に取り入れる必要がある。
- ・全教科とも、応用、発展学習にも力を入れていく必要がある。

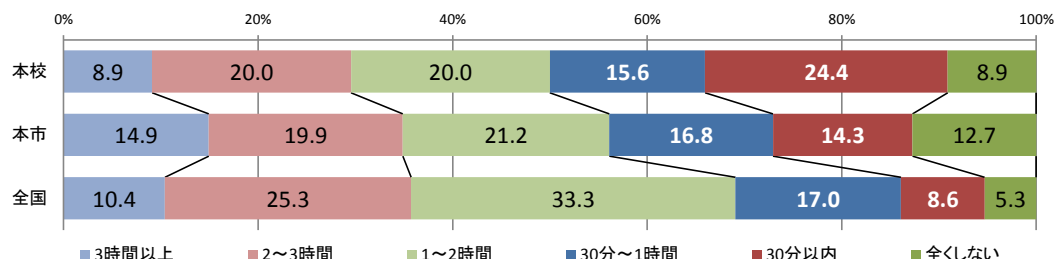
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

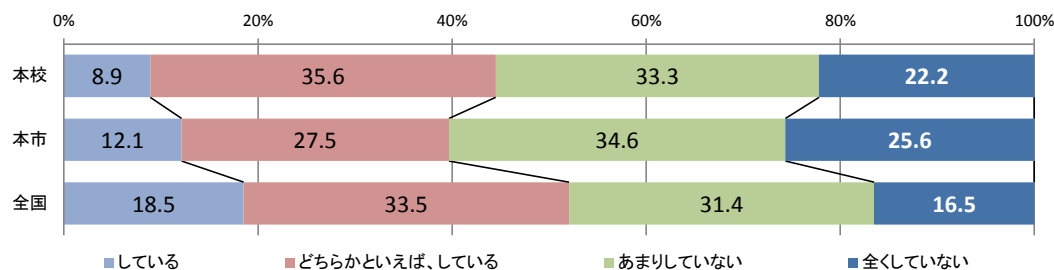
16
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)



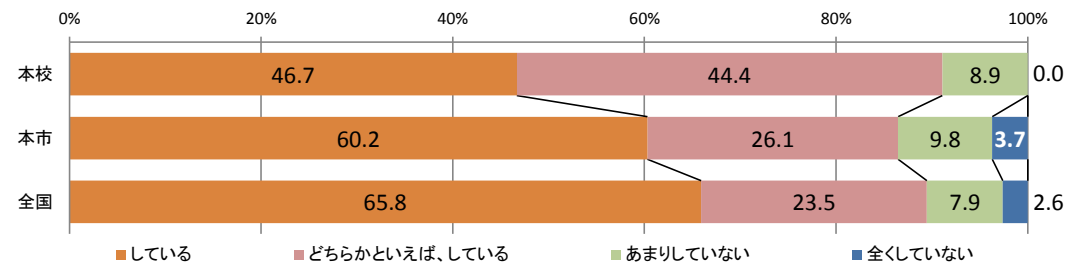
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



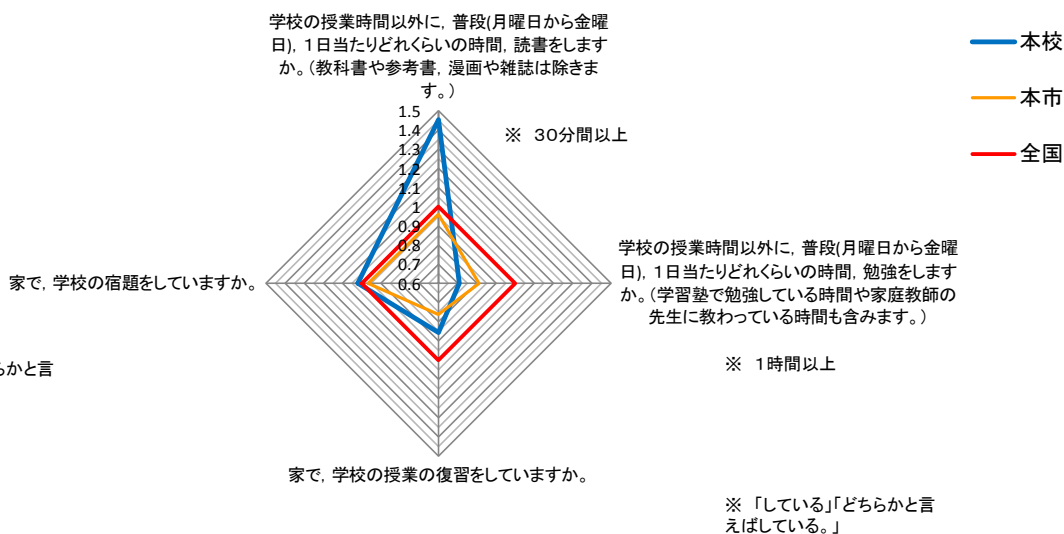
23
家で、学校の授業の復習をしていますか。



21
家で、学校の宿題をしていますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

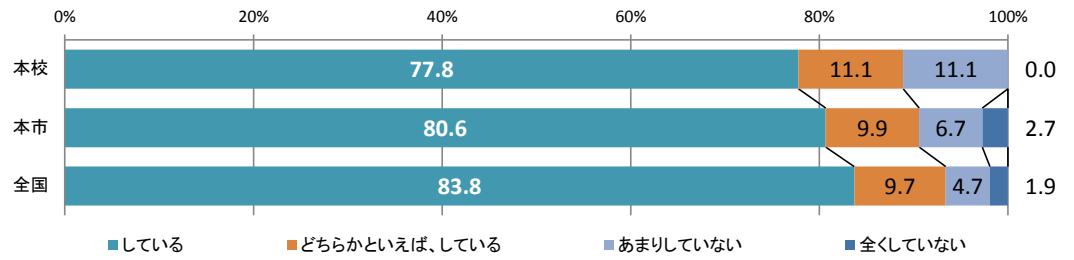


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

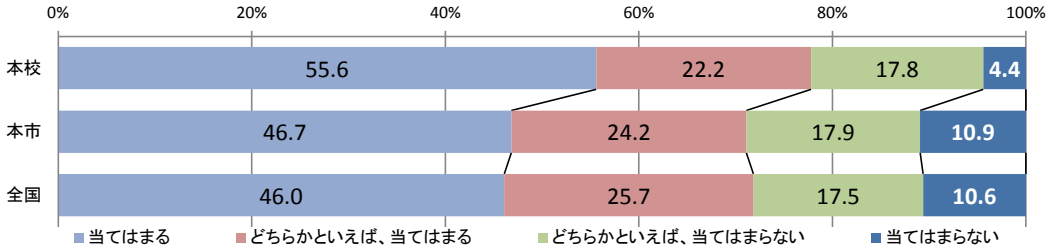
・読書の習慣が身に付いており、一日当たりの読書量は全国平均を大きく上回っている。
 ・授業以外の勉強時間が毎日1時間以上している生徒の割合は全国平均を大きく下回っている。
 ・宿題以外に、家で授業を復習する時間も全国平均を大きく下回っており、家庭学習の習慣を身に付けさせるための取り組みが必要である。

④ 生活習慣等に関する調査結果

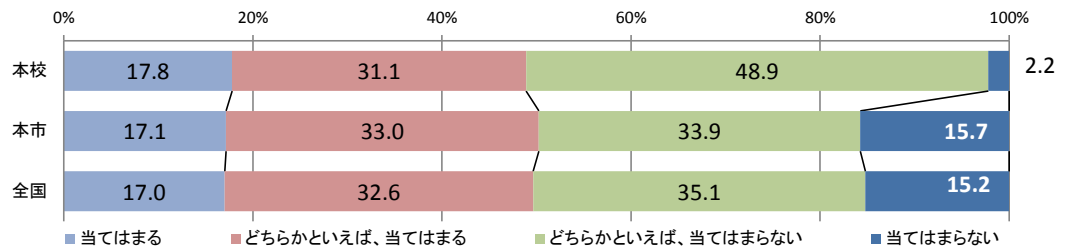
1
朝食を毎日食べていますか。



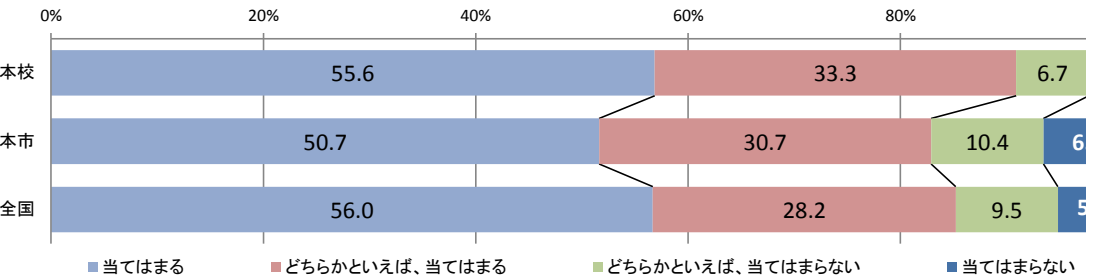
9
将来の夢や目標を持っていますか。



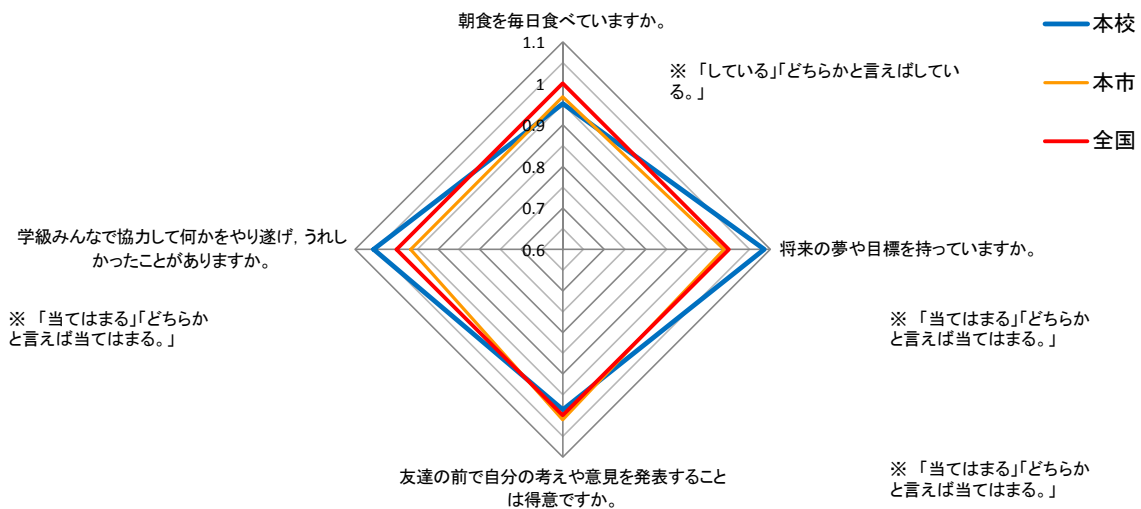
7
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。



26
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

・朝食を毎日食べている生徒は全国平均を下回っているが、年々増加傾向であり、家庭環境を含む基本的な生活習慣が確立できていると考えられる。
・将来の夢や目標を持っている生徒は全国平均を上回っている。また、学級で協力して何かをやり遂げようとする生徒は全国平均を上回っており、目標を持って学校生活を営んでいると考えられる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・授業三則(「時間厳守」・「礼に始まり礼に終わる」・「場を整える」)の指導等、全職員で学習規律の指導に当たる。
- ・毎時間の授業において、授業の目標である「まとめ」を達成するために、授業の最初に「めあて」を明確に示して指導を行う。
- ・全職員が、指導主事要請授業による授業研究・授業公開を行い、教師相互の協議を重ね、指導力の向上を目指す。
- ・放課後教室などの自主的に学習する時間を設けるとともに、教師も生徒への個別指導に当たる。
- ・教師が学年の課題に合わせて問題を作成し、朝自習として実施する。(国語・数学・社会・理科・英語)
- ・基礎・基本の定着を目指し、小单元ごとに小テストを実施する。(国語、数学、社会、理科、英語)
- ・各教科において、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させるために、自分の考えを書き、他人に説明する場面を取り入れた授業を実施する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・定期考査前に、家庭学習計画表に記入させ、学習の見通しを立てさせる。さらに、担任が家庭学習記録表を点検し、個別に指導を行う。
- ・毎日宿題を課すことで基礎・基本の定着を図り、家庭学習を習慣化させる。また、提出した宿題を教科担任が点検し、その後の指導に役立てる。
- ・各教室の背面黒板に宿題の一覧を掲示することで、各教科で宿題の分量や提出日等を調整する。
- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用方法について指導する。
- ・全国学力・学習状況調査の結果を学校HPや学校だより、学校運営報告会で報告し、課題や今後の取り組み等を保護者へ説明するとともに家庭との協力体制を整える。
- ・家庭学習学級や学年懇談会などで学校での取り組みや家庭学習の方法等を説明し、家庭との協力体制を整える。